



会員近況

東京都都市計画局
総合計画部企画調査課 千歳 壽一

日ごろ、くじ運が悪く、宝くじの類は当たることがないのに、任意抽出のアンケートなどにはよく選ばれます。どうも私の場合、有意な偏りがあるのではないかと、ひがんだりします。

東京都庁は、骨身を削るような人員削減と予算圧縮によって、財政再建をなしとげ、いま、マイタウン東京づくりに向けて1歩1歩進みつつあります。乏しい予算、少ない人員、狭められた昇進の道、その中で、多様化した住民の要望に応えながら、都市の活力を低下させない都市づくりを、いかに効率的に推進するか、都市計画担当職員の肩に重い責務がかかっています。地域情報データベース、計画支援情報システムの開発などが、かつてない真剣さで議論され始めています。

私の課では、その実現に向けて調査を行っていますが、それと並行して、もっと泥くさい計画の事務を、機械化すべく検討しています。

ORの前に、まずOAからというところです。

東亜燃料工業(株)
情報システム室 岡野宗十郎

わが社は石油精製専門の会社で、製品はエッソ石油とモービル石油が販売している。石油精製業というのはその構造上LPに打ってつけて、生産計画管理の中核にLPがどっかり腰を据えている。そんなわけで、わが社ではかなり実戦的な内容の社内LP教育コース(3週間)をもう20年以上も続けているが、このコースの冒頭でOR概論をやっている。昨今は、ORは役に立たないとかORの危機とかいった話もよく聞かれるが、いわば地道に(懲りもせず?)ORの普及をはかっているわけである。しかしながらその種の話否定し得ないのは残念なところである。1つには、経営工学、システム工学、IE、QC、……とあまりに類似あるいは競合する分野が多いためもあるのではないか。ORとはそれらも包含したもっと広い概念であると信じているが、それはともあれ、ORも含めてこれらを統合して1つの総合科学として体

系だてる必要があるのではなからうか。ORの新たな飛躍のために敢えて一言。

アイダ電機 取締役 相田 研一

OR学会との出会いは、大学院で経営工学の勉学を始めた頃からです。そのような関係上、企業で働くものとして、企業利益になるための経営をいかに効率よく、実理と学理との接点をもとめて、実際の経営と理論との間で仕事をしています。本学会での研究発表等を行ないたいと考えつつ、ほとんど活動をしていないのが現状です。私の研究テーマは「経営戦略、製品開発」なので、ORを研究の参考として利用していますが、主に研究発表の場としてJIMAで多少、発表などを行なっています。現在、1984年のJIMA研究発表会にむけて、「ある種の予測」の研究活動と経営活動を行なっています。

OR学会、役員の方々へ、ひとつお願いがあります。本学会の研究発表会等へ出席したいと考えていますが、本学会の場合、実務家も多いと思われるので、日常業務におわれているため、発表日になるべく、祭日または日曜日ははさんで行なってもらうと、企業で働くものとしてはありがたいのですが。

最後に、「経営戦略、製品開発」等の特集を組んでもらうとありがたいと思っております。

清水建設
広島支店土木技術課 久保田年久

私は今年から当学会に加わらせていただいた者ですが、私が初めてORという言葉を知ったのは、大学生の頃、もう十数年前のことになります。土木工学とORと言えば、一見関係なさそうですが実はそうではなく、土木計画の分野では線形計画法や待ち行列の理論など応用範囲が広いし、また流体力学や振動の分野では、工学モデルを大型コンピュータによって解いてシミュレートする方法などが、盛んに行なわれています。

とは言っても、そのような講義を聴いたのは、もう十数年前のことでありまして、私自身、真面目に聴講に通うタイプの学生ではなかったことと、会社に入ってから、ORとはほとんど無縁の道を歩んできたため、ORは私にとって、かなりなじみの薄いものになっていました。

しかし会社において、TQC活動に実際にたずさわってみますと、OR的なアプローチの必要性も、だんだん

わかってまいりましたので、これから1つずつ勉強してゆくつもりです。

住電ビジトロニクス
ソフトウェア技術部 柴田 潤

昭和22年生、44年住友電気工業に入社、現在、住電ビジトロニクスに出勤中である。入社後12年間は、広域交通管制システムのソフトウェア開発に従事し、それ以降マイコン応用システムのソフトウェア開発を担当している。

学生時代に三根教授・長谷川教授にORの講義を受けたものの、身につかないまま社会の荒波へ。しかし、今思い返してみると、定量的・論理的・時間的・空間的な考え方を叩き込まれていたことに気づく。ORワーカー

ではないものの、高度の論理性を要求されるソフトウェアエンジニアとして飯を食っているため、OR的な考え方を無意識のうちにしていることが多い。ORは戦争に勝つことを目標にスタートした学問と言われるが、技術屋が直面する種々の局面で正しい選択の可能性を高めるツールとして、より勉強し、より親しんでゆきたいと思うこの頃である。

趣味の面でもORのおかげか将棋は4段の免状をいただいている。現在はあまりやらないので棋力も低下の一端であるが、局面全体をにらみ大局的に損得を判断して次の一手の選択をするという戦略的な態度は今でも身につけている。10年後には人生にORがどう生かされたかを成果報告できるように、仕事・趣味両面で努力を続けたい。

会合記録

() 内は出席者数	国際委員会	10月6日(木)(5)	10月21日(金)(8)
編集委員会(OR誌)	会長候補者選考委員会	モニター会議	10月27日(木)(9)
10月5日(水)(9)	10月11日(火)(10)	支部長会議	10月25日(火)(14)
	モニター委員会	10月14日(金)(2)	研究普及企画小委員会
	秋季大会実行委員会		10月31日(月)(4)

編集後記▶今年も残りわずかとなってしまいました。新委員会が発足して半年、やっとここまでこぎつけることができました。原稿執筆者、特集のコーディネータの方々に心よりお礼申し上げます。またモニター、その他読者の方々からは様ざまな建設的なご意見を頂戴しましてありがとうございました。編集委員会ではその都度ご意見を検討し、取り入れるべきものは取り入れ、直ちに変更や改善ができない点は今後の解決課題として検討させていただいております。▶編集作業はルーチンワークとは言いながら、連載物はほんの一部ですし、記事内容も執筆者も毎月違うのですからなかなかルーチン化できません。常に新しいことを行なっているというのが実感です。またこの新しさがないと編集する私共の活力も生ま

れてこないような気がします。もちろん人目につきやすい目新しさだけを追求しているわけではありません。従来からの流れの中に潜む新たなトレンドも見逃がさない努力をしたいものです。▶今月号は予告通り、特集はすべて女性の方です。テーマ名が少し堅いのではないかと、特集としての内容がまちまちではないかとお叱りを受けそうですが、どうかご容赦下さい。とにかく女性の時代と騒がれている昨今、OR研究の第一線で活躍されている方々に登場していただくことを第一目的にしました。

▶新年号は「これからのOR」と題して会長はじめ、各界の方々からご意見を伺う予定です。年の初めとしてはうってつけのテーマです。読者の方々へは何かしらのインパクトを与えるものと確信いたします。(J)

オペレーションズ・リサーチ

昭和58年12月号 第28巻 (新シリーズ第8巻) 12号 通巻276号
代表者 横山 勝義
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) 〒113
編集人 牧野 都治
発売所 株式会社 日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円 (郵送料含) 年間予約購読料 9600円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社 (571-2548)、日経弘報社 (563-2241) へ